

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室（単位2）			
○保護者評価実施期間	～			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数)	0名
○従業者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の声を取り入れる	日々の療育場面や児童の得意・不得意を発信している。	モニタリングや個別支援計画の更新時にアセスメントシートを参照し、より具体的に情報を共有する工夫を行う。
2	スタッフが児童一人ひとりに関わり、情報共有と活気ある療育を実践できている。	アセスメントに基づいた支援計画を保護者へフィードバックを行っている。これらが安心感へと繋がっていると思う。	内・外部の研修に積極的に参加できる環境を整えていく ・長期的視野に立った専門療育を目指していく。
3	利用児への専門的アプローチに留まらず、保護者への専門的な助言や迅速な情報共有を通じて、家族の安心感を支える支援ができている。	児童の特性や得意・不得意などを明確にした上で、家庭でできるステップアップ方法を連絡している。 ・保護者の不安軽減にも努めている。	・今後、年齢の近い保護者同士や、卒園児の保護者を交えた集まりを企画していければと考えています。 ・親同士の横・縦のつながりによる安心感を醸成することで、ことリハを卒業しても何かの時には相談できる居場所になればと考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流、きょうだい支援、防災取り組みの共有という情報発信が不足気味であった。	限られたスタッフ配置のなか、専門療育や日々のこまめな連絡を優先しており、結果「地域交流」「きょうだい支援」「防災取り組みの共有」といった情報が不足していた。	避難訓練の実施状況や非常時マニュアルなどを保護者へ開示・共有していく。
2	情報の透明性と視野の拡大	事業所の外（地域）へのアプローチは不足していた可能性は否定できない。	日々の療育を最優先にしながら、スタッフの負担のない藩士で、地域活動にも取り込んでいきたい。
3			